

本日ここに、松江市と大口町が姉妹都市盟約を締結するにあたり、大口町を代表してご挨拶申し上げます。

まずもって、400有余年にわたる堀尾公のご縁を受け継ぎ交流を重ねてこられました両市町の市民の皆様、盟約の締結に際し格別のご理解とご支援を賜りました松江市、大口町、両議会の皆様、そしてこのような素晴らしい調印式の間を設けて頂きました、松浦松江市長様を始めとする松江市職員並びに関係者の皆様方に、心から敬意を表し感謝申し上げます。

誠にありがとうございました。

また、本日の調印式に至る大きなきっかけは、松江城天守閣の国宝化であります。

長年にわたり、松江城の国宝化に取り組まれた皆様方のご尽力に多大なる敬意を表すると共に、その悲願達成に対し、心からお慶び申し上げます。

さて、私共の大口町は、愛知県の西北部に位置する、人口は松江市の8分の1の2万3千人、面積は、宍道湖の6分の1の13.6平方キロという小さな町であります。

古くは純農村の貧しい村でありましたが、昭和の大合併の折、周辺市町から合併を拒絶された先人は、その屈辱的な逆境を乗り越えるために、企業誘致や土地改良事業、さらには、五条川堤への桜の植栽など、様々な分野で自主自立の精神の下、まちづくりに挑戦し、見事、自立可能なまちの礎を築いてきました。

それはまさに堀尾公が、戦国の世、織田・豊臣・徳川に仕え、武功を重ね月山富田城に入ったのち、将来に夢をさせ、この地に城を築き松江開府の祖となられた、想いと行動力に通ずるものではないかと感じているところであります。

私は、一昨年の町長就任に当たり、町民の皆様、大町町の礎を築いた先人に習い、50年後の大町町を思い描きつつ、着実に歩みを進めたいとお約束をいたしました。そこに不可欠なものは、将来への夢や憂い、それを実現し乗り越えるための、知恵や取り組み、熱意を、まちの皆様方と共有することであると考えております。

この松江の地には、堀尾公が築いたお城と、市民の皆様方の手によって受け継がれた街並み、暮らしの中で培われてきた歴史と文化が息づいており、今は、共創の精神を掲げまちづくりに取り組んでおられ、私共のお手本とさせて頂けるのではないかと期待しているところであります。

この姉妹都市盟約の調印を契機として、両市町の市民、職員が積極的に情報交換や議論をし、その具現化へ継続して取り組むことは、このご縁を導かれた堀尾公への、何にも勝る供養になるものと確信をしております。

今後は行政として、こうした取り組みがいっそう活発になるよう、精一杯、支援してまいりますので、市民、企業、議会、職員など、まちづくりに関わる皆様方のご理解とご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたり、松江市の更なる発展と、本日もご臨席の皆様方のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。あいさつといたします。

平成27年8月29日

大町町長 鈴木 雅博